

(議長)

次に、小梅議員の発言を許可致します。

「小梅議員」。

「小梅議員」

早速質問させていただきます。

災害時の避難訓練について、でございます。

地域防災計画が策定されまして新しくハザードマップの配布もなされました。大雨により、大雨による土砂崩れとか、地震、津波など災害はいつ起こるか分かりません。身を守るにはまず逃げるのが一番だと考えます。

3月に避難行動要支援者登録名簿ももらっていますが、実際に地域の中で支援を必要とする人はその登録者数の何倍にも及びます。たくさんいらっしゃいます。町内会など独自では、図上での説明会とかビデオを活用しての話し合いなどで、注意を促しているのですが、頭では理解できているつもりでも、自分自身もそうですが、行動してみないと分からないことがたくさんあります。そして、助けに回る人たちの年齢もそれ相応に高齢になってきていますので、防災意識向上のためにも公的に町をあげての大きな避難訓練の実施が必要と思うのですが、如何でしょうか。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

小梅議員の1問目、避難訓練の実施に関しましてのご質問にご答弁申し上げます。

防災に関しましては、各町内会・自治会の防災意識が高くなっており、防災・避難訓練が独自で実施されております。その際、防災担当者も赴き、図上訓練もさせて頂いている状況であり、感謝しているところでございます。

ご質問にもあります、町民を巻き込んだ避難訓練は平成26年11月に実施した北海道防災総合訓練以降行っていない状況にありましたことから、今年度の町政執行方針におきまして防災ハザードマップの全戸配布に伴い、町内会・自治会と連携して防災ハザードマップの活用方法と図上訓練や防災・避難訓練を行う、としております。具体的な方法や時期は今後検討して参りますが、津波避難訓練も一つの方法と考えているところで、議員ご指摘のとおり、実際に参加し行動して頂いた上で、防災意識の高揚を図って参りたいと考えております。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。今、あの良いお答えを頂きました。防災グッズだの、点検とか、それぞれ皆さん用意なさっているのですけれども、普段気にしながらもなかなか中の交換とか出来ないでいます。そういう機会がありますと、そういう点検が出来る、またあの避難経路の確保とか色々な実際出来ることがたくさんありますし、それに日頃から要支援者との付き合い方、それなんかもあの考える良い機会にもなると思うのですよね。だから、1回ぼっきり、忘れた頃じゃなくて、これを継続して毎年行うような考えはおありでしょうか。

(議長)

はい、「総務課長」。

「総務課長」

先程、議員の方からもご指摘がありましたとおり、要支援者の名簿につきましては、日頃からあのお付き合いが大事だということはまさしくそのとおりだと思っております。

その避難訓練等々につきましてはですね、本当に町長答弁のとおり、26年以降やってないというところもありましてですね、今年度につきましては是非やっていきたいという考えのもとで今検討を進めております。継続してというところにつきましてはですね、その方向で出来るように努めて参りたいという風に思っておりますので、ご理解頂ければと思います。

(議長)

いいですか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

2問目。

「小梅議員」

はい、あ、ちょっとお待ちください。

(議長)

もう1回、3回目。

「小梅議員」

もう1回。

(議長)

はい、どうぞ。

「小梅議員」

大変ありがとうございました。

後ね、簡単に、保育園とか各小中学校とかまたそれを含めて介護施設とか、それから福祉施設そういうところなんかの訓練状態はどういう風になっているのでしょうか。お聞きしたいと思います。

(議長)

「学校教育課長」。

「学校教育課長」

各小中学校においては、防災訓練、年1回行っております。それぞれ火災の部分でも津波の部分でも行ってございます。

(議長)

「町民福祉課長」。

「町民福祉課長」

はい。保育園の避難訓練につきましては、毎月定例で行ってございます。以上です。

(議長)

はい、いいですか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい、それでは、2問目。

「小梅議員」

はい。それでは2問目お願い致します。

ニシンの活用というか消費について、をお聞きします。

ここ1、2年、江差でもニシンが獲れてきているようで大変喜ばしいことだと思いますが、何かあの食べるのでも何でも町民の間では、イマイチ盛り上がりには欠けているように思われます。長い間獲れていなかったのも、調理方法も何かあやふやだろうし、味も分からない人が本当で、親しみがないのは仕方がないのかなと思います。かろうじて、ニシンそばとかニシン漬けには馴染みがあるようなのですが、それだけでは無いよ、特に加工しなくても手軽に煮たり焼いたり、家庭で手軽に美味しく食べられるのだよということをおね、もっと町民の皆さんに知ってほしいと思うのですね。その対応のためにも、町民対象のニシン料理の試食会みたいなのを開いて、味を覚えて頂きながら、調理方法などをあの広めてもっともっと活用を図って盛り上げて、消費に繋げて、盛り上げていきたいと思うのですが、それが大事なことだと思うのですが、如何お考えでしょうか。

（議長）

はい、「町長」。

「町長」

2問目のニシンの消費拡大についてのご質問でございます。

江差町におけるニシン漁は近年徐々に水揚げが増えており、平成29年には約0.8トン、本年は約3トンの水揚げがありました。

ニシン資源の増大を図るため、檜山管内水産振興対策協議会が中心となって、稚魚の放流事業を続けており、特に平成29年、30年は主に江差で漁獲された親ニシン約500キロから採卵し、孵化・飼育した稚魚を放流しております。このため、放流事業に使われないニシンが一般に流通し、市場へ出回る状況にあります。まだまだ、少ない量のみでの流通ですが、本年は年間を通じた江差産ニシンの流通や観光客への提供などを目指して、江差町観光まちづくり協議会が漁協と協力し、ニシン約730キロを冷凍し確保しました。

ニシンの繁栄が息づく町として日本遺産にも認定され、食文化についてもニシンそば、ニシン漬け、ニシンの三平汁など多くの伝統的な調理方法の他、新たな調理法や土産品への加工など、企業や飲食店にも研究や努力をして頂いているところであります。

しかしながら、議員ご指摘のとおり、町民の皆様にも地元産ニシンの味に親しんでもらい、手軽に活用して頂く地産地消につきましても、重要な取り組みの一つであると考えております。このため、町民を対象としたニシン料理教室、料理講習会等の開催について検討し、今後も江差産ニシンの消費拡大に努めて参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

「小梅議員」

はい、分かりました。それから今。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。まもなくあのかもめ島まつりがありますね、大きな行事。その中で、かもめ島まつりの中で炉端焼きがあるのですが、その中でニシンを焼くとかそういう予定はないのでしょうか。

(議長)

産業振興課長、「追分観光課長」。

「追分観光課長」

ニシンの消費、活用に関して、かもめ島まつりの炉端のご質問ございました。

あの今のところはまだそこまで具体的に協議をした経過がございません。戻って、団体の皆さんと再度協議しながら対応可能かどうかも含めてですね、協議していきたいと思っておりますので、ご理解ください。

(議長)

いいですか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい、以上で、小梅議員の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩致します。